

お知らせ

INFORMATION

No.2015-29
2015 年 7 月

病体生理研究所

測定後の血清検体の保存方法の変更 及び検査項目の保存安定性の変更について

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は当研究所をご利用頂きまして誠にありがとうございます。

当研究所は 2015 年 9 月 24 日の新棟移転に伴い測定後の血清検体の保存方法について下記の通り変更を行います。

この事業所移転を期に、更なる業務の効率化・精度向上・結果返却の迅速化などに努めてまいり所存です。

何卒、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

記

【測定後の血清検体の保存方法の変更について】

◆ 現状の測定後の血清検体の保存方法

- ① お預かりした元検体は 1 週間保存し、検査終了後の血清検体は、「別の保存用スピッツに分注」し、凍結にて 1 ヶ月間保存しております。
- ② 保存期間中の血清検体は後日の追加依頼を受け付けています。

◆ 変更後の血清検体の保存方法

- ① 血清検体は、検査終了後「お預かりした採血管（容器）の状態」で、「冷蔵保存」に変更させて頂きます。
- ② 保存期間（1 ヶ月間）の変更はありません。
- ③ 保存期間中の後日の追加依頼は従来通り受け付けさせて頂きます。

(財) 東京保健会 病体生理研究所

〒173-0025 東京都板橋区熊野町47-11 電話 03-3956-4101 (代表)

◆ 変更の目的

- ① 新研究所棟の設計はコンパクトと機能性重視をコンセプトとしました。設備につきましてもランニングコストの削減を目指し、省スペースによる費用低減化を目指しました。この観点から、新棟移転と同時に血清分注システム更新で業務の効率化と検査の迅速化を追求し、血清検体の保存方法変更によるコスト削減を行います。
- ② 保存用スピッツの保存から、元検体（採血管）の保存とすることで医療安全の観点からも効果があります。

◆ 変更による影響

凍結保存から、冷蔵保存に変更することで、一部の項目においては検査値に影響が出る場合がございます（「検査項目の保存（安定性）の変更について」参照）。

【変更日】

2015 年 9 月 24 日（木）受付分より

【主な検体の保存方法一覧】 ※ 変更対象は血清検体のみ

提出時の検体		従来		変更	
		保存状態	保存期間	保存状態	保存期間
血清検体で提出		別スピッツ に分注して 凍結	1 ヶ月間	元検体のま ま冷蔵	1 ヶ月間 (変更なし)
生化学（分離剤入り）検体	血清				
	血餅	冷蔵	1 週間		
血糖・HbA1c 検体		冷蔵	1 週間	変更なし	
血算検体		冷蔵	1 週間	変更なし	
凝固検体		冷蔵	1 週間	変更なし	
尿検体		冷蔵	1 週間	変更なし	
血漿等の専用検体		冷蔵	1 週間	変更なし	

【検査項目の保存（安定性）の変更について】

測定後の血清検体につきまして、従来の凍結保存から冷蔵保存に変更させて頂くことに伴い、検査値の経時的変動を検討した結果、下記の項目で影響が認められました。

下記項目の「保存(安定性)」欄では、従来「冷蔵」と表示し「安定性」の期間表示はありませんでしたが、新たに追加表記させていただきます。

(検査案内書における「保存(安定性)」欄は、ご提出いただく検体の保存条件です。検査測定後の保存条件のことではありませんのでご注意ください。)

検査項目〔コード〕 頁	変更箇所	新	従来	備考
TTT 〔10002〕 P1	保存 (安定性)	冷蔵 (7 日)	冷蔵	* 経時的な低値傾向
AST (GOT) 〔10006〕 P2	保存 (安定性)	冷蔵 (14 日)	冷蔵	* 経時的な低下。高値検体の低下率が高い傾向 (凍結保存でも変動あり)
ALT (GPT) 〔10007〕 P2	保存 (安定性)	冷蔵 (14 日)	冷蔵	* 経時的な低下。高値検体の低下率が高い傾向 (凍結保存でも変動あり)
LD 〔10008〕 P2	保存 (安定性)	冷蔵 (14 日)	冷蔵	* アイザイム分画 1.2 で上昇、4.5 で低下傾向、溶血不可。 (凍結保存でも変動あり)
アミラーゼアイソザイム 〔11370〕 P3	保存 (安定性)	冷蔵 (7 日)	冷蔵	* 活性%、サブバンドの増加
総ビリルビン 〔10010〕 P10	保存 (安定性)	冷蔵 (21 日)	冷蔵	* 高値検体は低値傾向 (凍結保存でも変動あり)
間接ビリルビン 〔10038〕 P10	保存 (安定性)	冷蔵 (21 日)	冷蔵	* 高値検体は低下傾向 (凍結保存でも変動あり)
直接ビリルビン 〔10039〕 P10	保存 (安定性)	冷蔵 (21 日)	冷蔵	* 高値検体は低下傾向 (凍結保存でも変動あり)
K 〔10042〕 P11	保存 (安定性)	冷蔵 (7 日)	冷蔵	* 高値化、分離不良検体ではパニック値までの上昇
IP 〔10044〕 P11	保存(安定性)	冷蔵 (14 日)	冷蔵	* 経時的な高値傾向
葉酸 〔10160〕 P13	保存 (安定性)	冷蔵 (21 日)	冷蔵	* 経時的な低値傾向
グリコアルブミン 〔12366〕 P15	保存 (安定性)	冷蔵 (21 日)	冷蔵	* 経時的な高値傾向
プロラクチン(非妊婦) 〔10532〕 P37	保存 (安定性)	冷蔵 (20 日)	冷蔵	* 経時的な低値傾向
フェリチン 〔10370〕 P51	保存 (安定性)	冷蔵 (14 日)	冷蔵	* 経時的な高値化

検査項目〔コード〕 頁	変更箇所	新	従来	備考
C3 〔10385〕 P52	保存 (安定性)	冷蔵 (7 日)	冷蔵	* 経時的な高値傾向 (凍結保存でも変動あり)
C4 〔10386〕 P52	保存 (安定性)	冷蔵 (7 日)	冷蔵	* 経時的な高値傾向
RPR 法定量 〔10987〕 P61	保存 (安定性)	冷蔵 (7 日)	冷蔵	* 経時的な低値傾向
RPR 法定性 〔10975〕 P61	保存 (安定性)	冷蔵 (7 日)	冷蔵	* 弱陽性の陰性化
寒冷凝集反応(COLD) 〔10077〕 P65	保存 (安定性)	冷蔵 (21 日)	冷蔵	* 2 管差上下に乖離

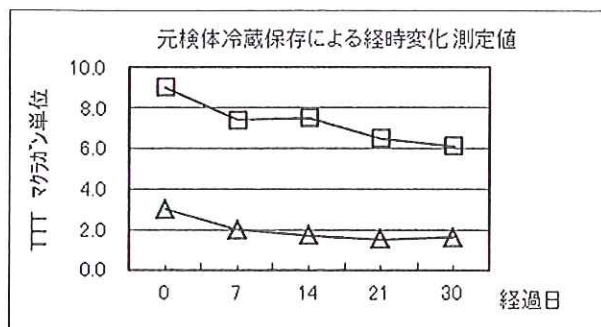
【追加項目毎の結果データの影響】

- ① 各種文献、試薬メーカー調査、実検体によるデータ検証を行いました。
- ② 血球成分の漏出によるカリウム・LD 等のデータ変動や、冷蔵での長期保存による血清の変性により一部の項目で検査値に影響がでる場合がございます。検査項目追加の際におかれましては、あらかじめご了解ください。

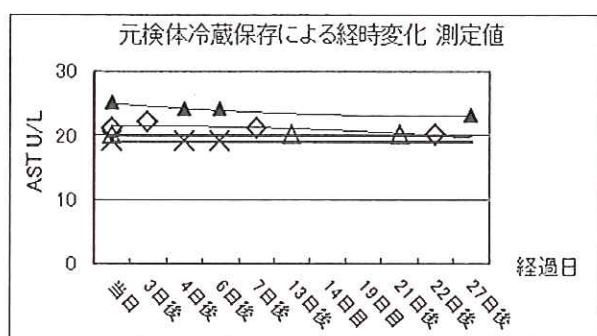
以上

図. 変動が認められた項目

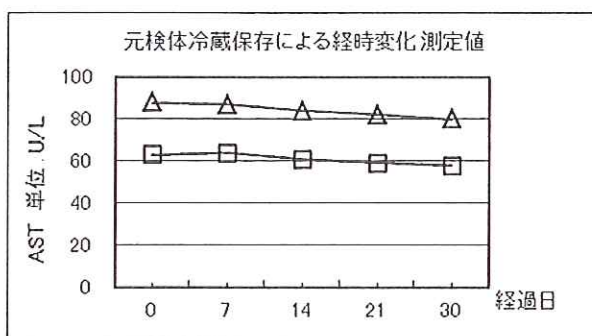
TTT (フェール混濁試験)



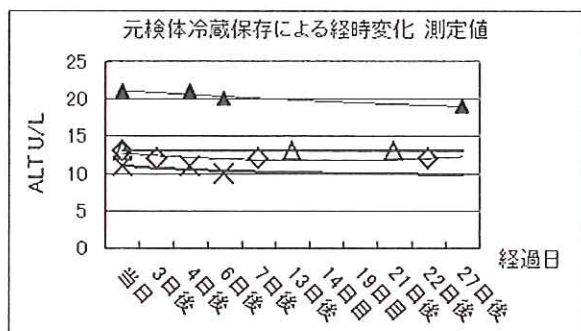
AST (GOT) 低値域



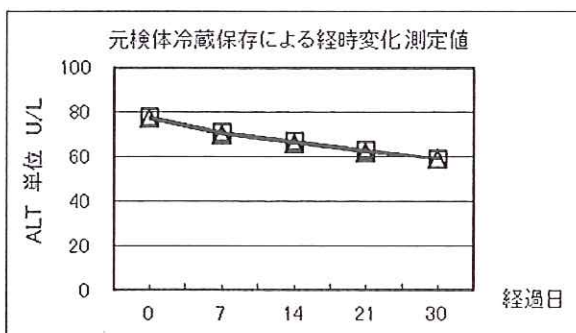
AST (GOT) 高値域



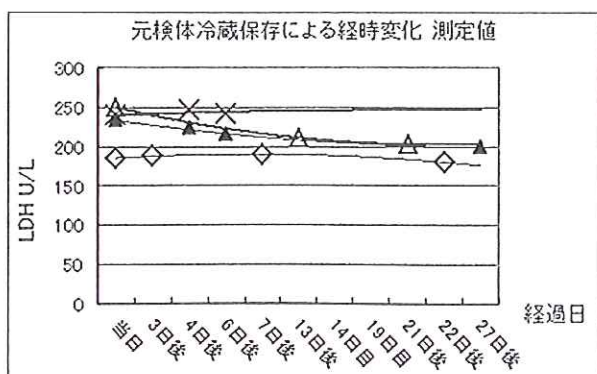
ALT (GPT) 低値域



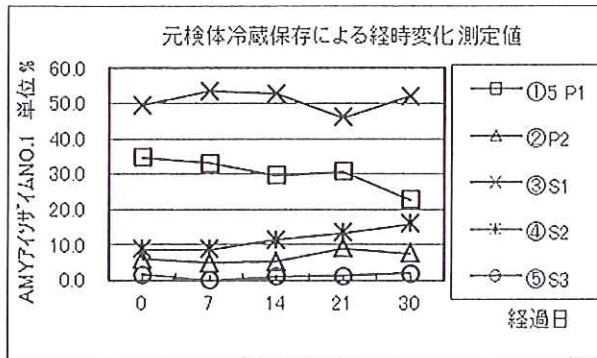
ALT (GPT) 高値域



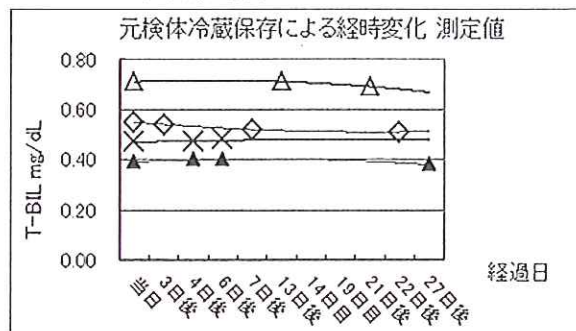
LD (LDH)



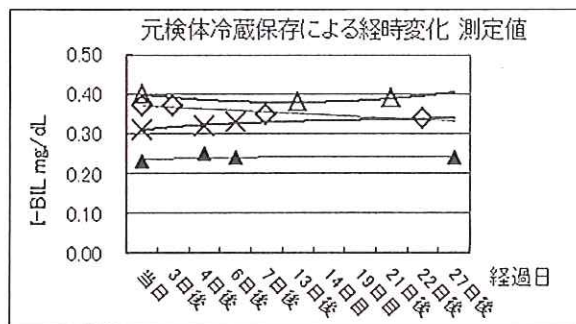
AMY アイザイム NO.1



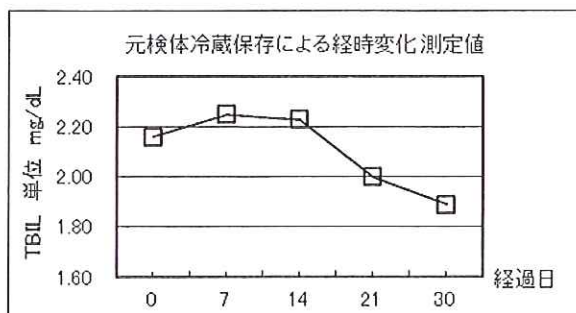
T-BIL (低値域)



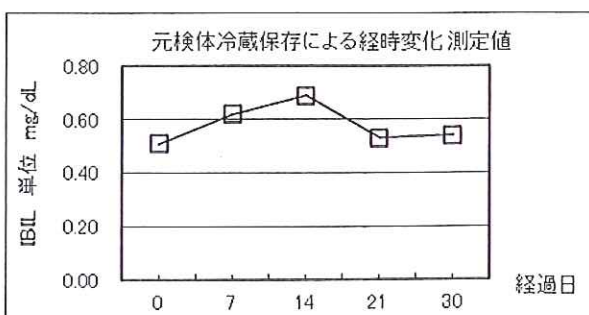
I-BIL (低値域)



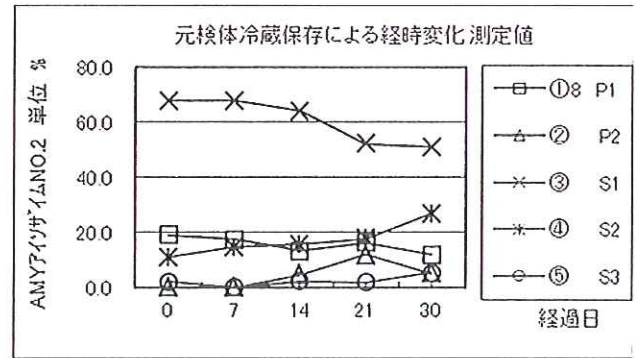
T-BIL (高値域)



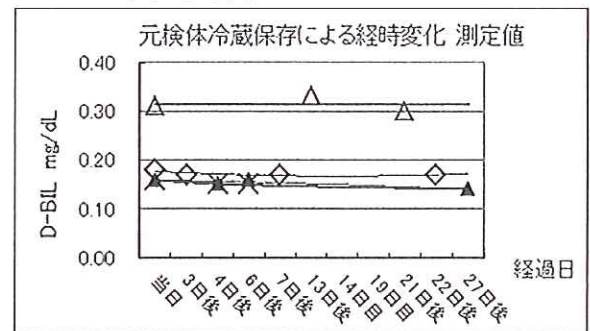
I-BIL (高値域)



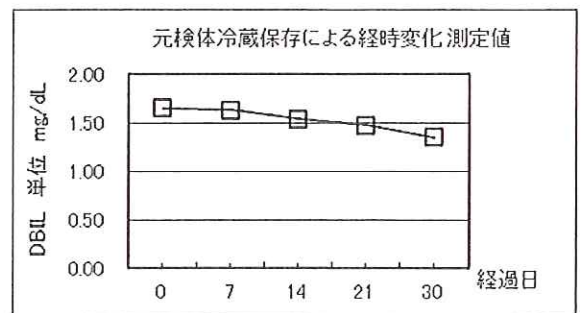
AMY アイザイム NO.2



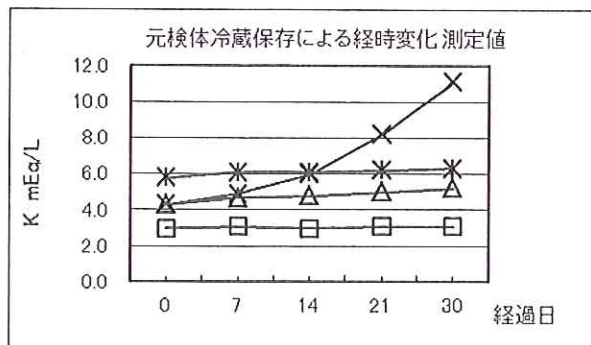
D-BIL (低値域)



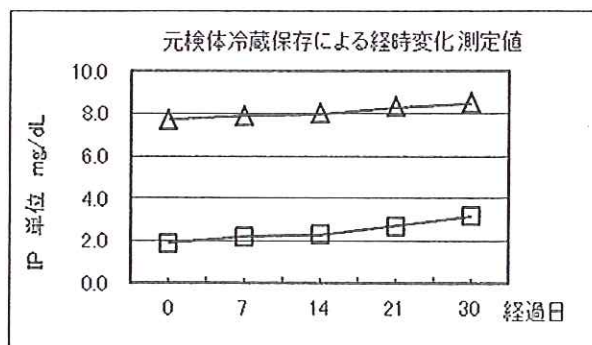
D-BIL (高値域)



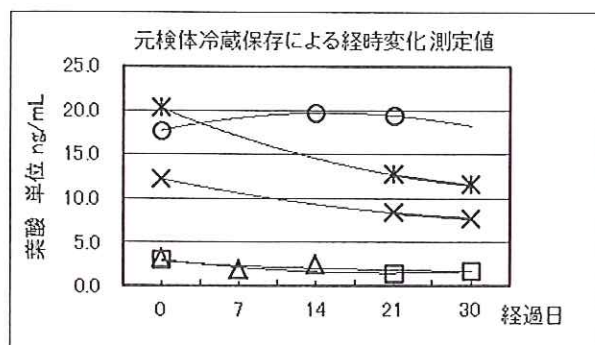
K (カリウム)



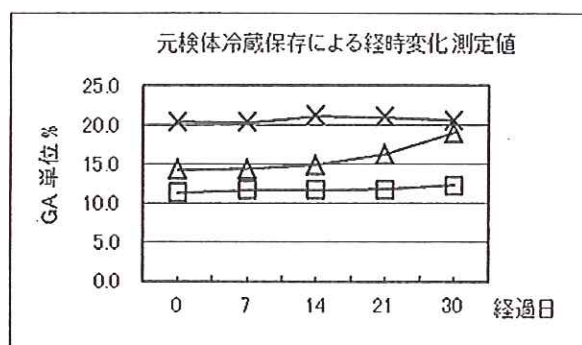
IP (無機リン)



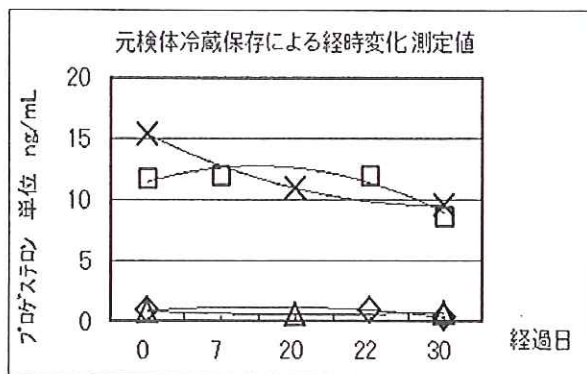
葉酸



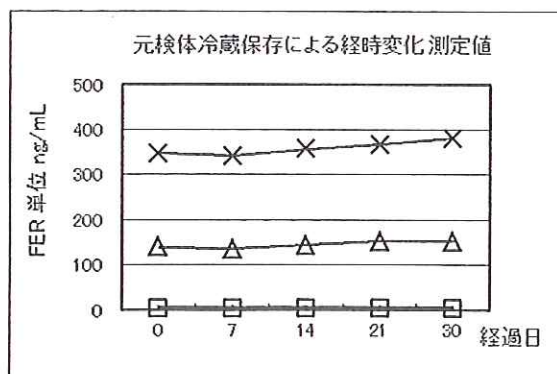
グリコアルブミン



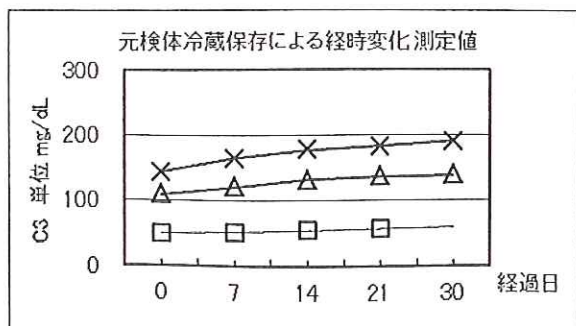
プロゲステロン



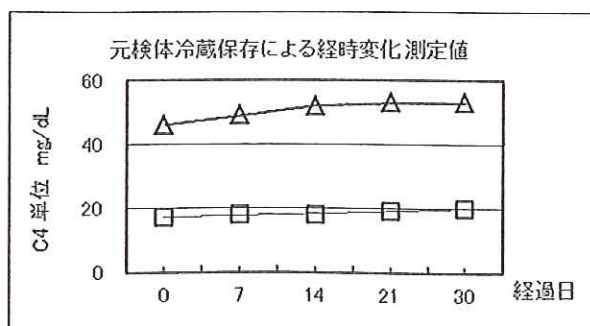
フェリチン



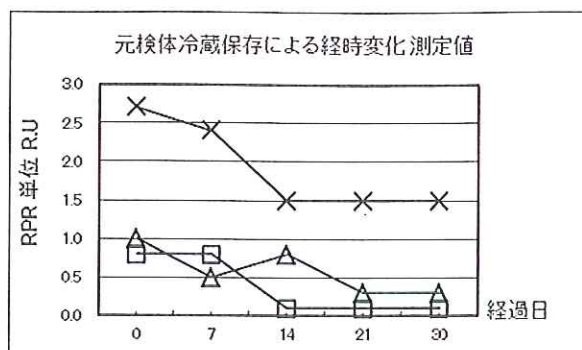
C3



C4



RPR 定性・定量



寒冷凝集反応 (COLD)

